

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

生き物と関わる姿から成長を捉える／学校法人水谷学園 認定こども園北陵幼稚園・北陵保育園（島根県）

新入園の子どもだけではなく、進級した子どもたちにも、新しい保育室での生活や仲間、先生との出会いに戸惑う姿が見られるかもしれません。そのような子どもたちにとって、そうした心の動きを晴らしてくれることがある小さな生き物。

今年度は、どんな出来事があるでしょうか？

今回は、ダンゴムシと関わる4歳児の姿をご紹介します。



### ● ダンゴムシと関わる／4歳児

#### ✦ Aちゃんとダンゴムシ（4月）

子どもたちは、次々とプランターを移動したり園庭の隅を歩き回ったりして、一生懸命ダンゴムシを探している。

怖くて触れないが積極的にダンゴムシを探しているAちゃんは、「いたぞ！早く捕って！」「見付けた！僕の…」と言う。次第に、捕まえられるようになる。子どもたちはダンゴムシを見付けては、手に持っている砂場用遊具の茶碗や杓にダンゴムシを入れる。

ダンゴムシを捕まえても、逃げていることに気付く子どもがいる。

保育者が「なぜ逃げるのか、考えてみよう」と声を掛ける。

小さいダンゴムシより大きいダンゴムシがいいと思っているBちゃんが、「小さいから逃げるわね…大きいのがいいよ」と言う。

Cちゃんは、大きい入れ物だと逃げないと思い、発砲スチロールの大きな箱を持って来る。

この箱は、中に仕切りがあり、「ダンゴムシのマンションだ！」と言い、ダンゴムシの大きさ別に、仕切りを利用して分けて入れている。

しかし、ダンゴムシは逃げてしまう。

「せっかくマンションに住めるのに…葉っぱも入れたのに…何故かな？」とCちゃんが言い、友達と一緒に考える。

Aちゃんは、ダンゴムシの図鑑を小脇に抱え、ダンゴムシをペットボトルに集めている。

Aちゃん：「あのね、ツルツルしていないから登れるよ」と言う。

保育者：「ツルツルしていないとだめなの？」と、問いかける。

Aちゃん：「そうだよ。いっぱい足があるから、ゴソゴソ登るよ…高いといい…」

保育者：「ペットボトルはツルツルしているけど大丈夫？逃げない？」

Aちゃん：「大丈夫、高いから」と言い、図鑑を度々見ている。



#### ✦ Dちゃんとダンゴムシ（4月～5月）

園庭でダンゴムシを発見し喜び子どもたち。

Dちゃんは、指でダンゴムシの道（線）を描いた。Dちゃんは、ダンゴムシにこの道を走らせようとしている。ダンゴムシは走らない。ゆったりとゴソゴソ歩く。横の方に勝手に向かう。

保育者はDちゃんの面白い発想を受け止め、Dちゃん同様に道（線）を描いて、興味をもって集まった子どもたちが、自分の気に入ったダンゴムシを競争できるようにする。

Dちゃん：「お願い！走って…」

Eちゃん：「頑張れ…頑張れ」

ダンゴムシは、一向に走る様子はなく、まっすぐに歩くこともない。子どもたちはダンゴムシの様子に注目し、ダンゴムシの生態を感じ取り学んでいる。

早速、子どもたちはクレパスでダンゴムシ迷路を描き始める。

その後、保育者は保育室いっぱいに模造紙を貼り、ダンゴムシ迷路を描ける環境を作る。

保育者が絵の具やローラーも使えるようにすると、子どもたちは喜んで使って描いた。



## ✦ 考察

ダンゴムシと関わる子どもたちの言動から、一人一人の興味や関心を保育者が理解して保育の工夫をすることは、子どもたちの「科学する心」が育まれる豊かな体験に繋がっている。特にこの事例では、保育者は子どもたちが一緒に考え合う場面を作り、発想を豊かに引き出す援助をしている。このような援助が日常の様々な場面で重ねられていることが、AちゃんやDちゃんのダンゴムシとの関わりとなり、学びや発想の実現に繋がっていると思われる。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」